

令和4年度 富士宮市立富士根南小学校グランドデザイン

- 全ての教育活動の根幹:「子供一人一人は、かけがえのない存在である」
- 目指す子供像:「富士山を心に夢をもって生きる子」

富士根南中:こころざしをもち学び合う躍南の生徒

これから求められる力
◎OECD学びの羅針盤 *社会的・文化的・技術的ツールを相互作用的に活用する力 ②③⑤ *多様な価値観に係るグループの人間関係の形成能力 ⑥⑨⑩ *自律的に行動する能力 ④⑦⑧ *新たな価値を創造する力 ②⑤ *対立やジレンマを克服する力 ⑤⑥⑨ *責任ある行動をとる力 ④⑦⑧⑩⑪
◎ポストコロナの学校(中教審初等中等教育分科会) *ICTを道具として使い熟す「自律した学習者」①②⑤⑧⑩⑪
◎ESD(持続可能な開発のための教育) *課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

本校の「強み」と「よさ」
子供 元気で明るく素直 判断・行動から自己効力感が高まりつつある 仲間とよく協力しあっている 親和的な自治的集団が形成されつつある
教職員 子供主体の授業づくりができてきた 組織的授業運営ができる
保護者 愛育会の組織力がある協力体制がある
地域 学校と協力体制がある 学校応援団組織がある

基本理念
自主・自律
協働・共生

学校教育目標「夢をもって、自ら考え 共に学ぶ子」

富士根南小学校の子供たちに育てたい11の資質・能力

生きて働く知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
① 文章の意味を正しく理解する読解力	③ 情報を活用する力(「書く力」も含む)	⑦ 自分事として捉える力
② 生活や既習事項と結び付け、転用可能な知識・技能とする力(汎用力)	④ 自己決定・自己選択する力	⑧ 自己統制してやり抜く力
	⑤ 新たな意味や価値を見出し形づくる力	⑨ 他者を認め、思いやる態度
	⑥ コミュニケーション力	⑩ 仲間と協働し、よりよく生きる態度
	⑪ 自己を振り返る力・自己調整する力(メタ認知力)	

課題解決への具体策と改善方針・重点取組(2学期)
○ 学年マネジメントタイムの「子供理解」の取組については継続する。学年のカリキュラム・マネジメントについては、 普卒の3つの側面(②を特に意識し、授業の改善)で、コロナ禍に於ける単元配列やICTを活用した授業と家庭学習をつなぐ学習を取り入れた単元配列の構築などについてPCOAサイクルを構築させ、授業改善の一層の充実を図る。
○ 学び合い(協働的な学習)の充実につながる ICTを活用した家庭学習を単元に計画的に組み込んだ学年マネジメントタイムにて作成して実践・検証 。これについての 有効な実践例をデータベース化し、実践に係る困難を解消する 。協働的な学習場面では、 「あたたかな話し方」 を徹底し、課題解決に迫る対話を実現する。
○ アクティブタイムでは、 ステージ制による課題発見・協働的課題解決の進め方がある中でICT等を活用し一層の充実を図る。短いスパンでのPCOAサイクルを構築させ、繰り返し実践させ、学び返りを充実させ、学びの向上を促す。 また、ステージ制に一層主体的に取り組むことで自治的な活動場を増やし、 どの子にもリーダーシップ・フォロワーシップを育て、親和的なまとまりのある学級(学年)集団を形成させる。 (12月のQ&Aでは、 自治的集団成立を目指す。)
○ コロナ禍であることを鑑み、 学校の様子」を毎日更新して、子供の学びの様子を発信し、保護者が教育活動の進捗やねらいについて同時進行で理解を深め、子供のよりよい育成に学校と協働できるように情報発信を目指す。 学校だより、学年だよりの一層の質の向上を図る。



主な課題(1学期 学校評価より)
● 学年マネジメントタイム(学年部会)は9割を超える教員が、情報共有する場として良好としているが、 一層の機能化を求める声も聴かれる。 子供の学びの進捗状況を踏まえたカリキュラム・マネジメントの充実、各教科の単元構想の吟味など 短時間で効果的に実施する工夫が必要である。 子供理解・生徒指導に関しても同様である。
● 授業に活かせる家庭学習を計画的に単元構想に組み入れることへの難しさを感じている教員が36%いる。学年で実践を重ね 有用な実践例の共有化を図る必要がある。 また、実施教科のバランスや他の宿題との兼ね合いについて検討が必要である。子供には、 授業と家庭学習が相互に活性化し学びの楽しさ(主体的に学ぶことの楽しさ)を実感させたい。
● コロナ禍、アクティブタイムを利用した自治的活動に取り組む一定の成果が得られた学級は70%に留まる一方、 「自分で考え判断して行動できている」と回答する児童は85%を超える子供の自己効力感向上している。 1人1台PC等を活用しながら、 学級の課題を見出し、話し合いを経て協働的に解決する営みが繰り返されるように創意工夫する必要がある。
● 6月に実施した(3年生以上)QU診断では、6学級が親和的まとまりのある全体集団成立期にあり、11学級が中集団成立期、小集団成立期以下で6学級であった。どの学級においても、 再度「目指す学級像」を学級全体で確認し、それを達成するために必要な「みんなが守る約束(ルール)」を理解させ、学級全体で取り組む体制を整える必要がある。
● HP・メール配信などの改善により、学校からの情報発信に係る保護者評価は95.8%(R3比-0.7)は概ね良好である。コロナ禍、直接子供の様子を見られずに教育活動の意図が伝わらず不安に思う保護者も多い。地域・保護者と協働体制を築くため、 加えて学校HPの平均アクセス数400人/日を維持・増数するために、情報発信の質の向上を図る必要がある。

学校経営目標の評価の観点(趣旨)	R3	目標値	1学期
・学び合う授業は楽しく、内容がよく分かる。(市共通)	93.2	95.0	93.1%
・授業に家庭学習(予習・復習・自主勉強)が生かされている。	81.6	85.0	82.0%
◎PCを活用した家庭学習は楽しく、進んで取り組める。	*	85.0	77.2%
・単元(授業)のゴールに向けて、自分の学びを調整できる。	87.3	90.0	82.8%
・「あたたかな話し方」ができる。	88.4	90.0	88.7%
・「やさしい話し方」ができる。	95.8	97.0	85.8%
・自分で考え、よりよく判断し行動することができる。	86.9	90.0	86.4%
・自分の行動を振り返り、次に何をすべきか自分で分かっている。	87.8	90.0	88.5%
・(学校生活の中に)自分で考え、進んで取り組める活動がある。	90.6	95.0	89.8%
・人に指示されることなく自ら行動できる。	84.2	86.0	82.0%
・じかに、きれいに、こばを意識して生活している。	85.4	88.0	86.5%
・新しい生活様式など、自分の健康を考えて生活している。	91.8	95.0	91.0%
・QUにおいて学級満足群65%以上、不満足群10%以下	61/12	65/10	57/10

短いスパンでのPDCA

自律した学習者

親和的な自治的集団



教育支援部	環境支援部
○ 特別支援教育・就学支援の違いを明確にした教育支援の質の向上 ○ 子供の豊かな成長につながる校内ケース会議の持ち方の再検討 ○ 合理的配慮の組織的な取組によるインクルーシブ教育システムの構築 ○ いじめ・不登校早期対応システムの構築・効果的な運用の実現 ○ SC・SSW、関係機関等と連携した教育相談、拡大ケース会議の充実	○ 豊かな学びを創出するICT環境の工夫と整備(GIGAスクールの実現) ○ 安らぎを生む学校施設リノベーション(コミュニティルーム・掲示板・生活室) ○ 感染防止に係る保健室改修、消毒作業徹底、関連物資の滞滞のない調達 ○ 大規模校のよさを活かした業務改善・働き方改革の推進(チームわみなみ) ○ 教育効果を最大限に引き出す適正な予算執行の実現、費用対効果の確認

社会に開かれた教育課程の実現

地域との連携(横の連携)	保護者・家庭との協働	幼保・中・高との連携(縦の接続)
□ 学校応援団(PTA+C)との協働 □ 地域の人的教育資源の積極的な活用 □ 通学路の防災・交通安全一斉点検と改善 □ 青少年健全育成協議会との連携 □ 登下校の安全確保(地域見守り隊との協働)	□ 通学路の防災・交通安全一斉点検と危険箇所の選定・改善 □ 適時・適切な情報発信による保護者との協働体制の構築 □ 親子読書の日・ファミリースポーツデーの実施 □ 図書ボランティア等による図書館環境の向上 □ 愛育会の活動支援	□ 幼保・小交流事業(ようこそ1年生)の実施 □ 小中連携・小中合同研修会の実施 □ キャリア教育の充実 □ 中学校体験入学、ようこそ先輩の実施